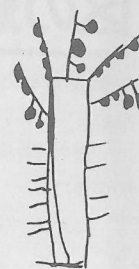
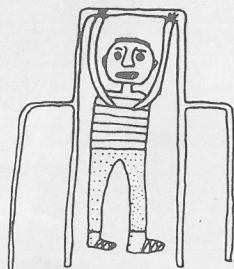
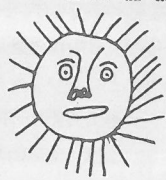
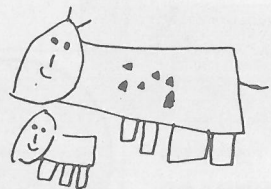


# 区の

昭和58年3月



# 魅力づくり



横浜市  
THE CITY OF YOKOHAMA

目次  
区の魅力づくり 2

磯子区 3

いそご海づり場

海の見える散歩道

根岸駅前広場

岡村公園遊歩道

磯子広場公園

磯子スケッチ画集

南区 11

大岡川プロムナード

弘明寺街庭

蒔田中学校前遊歩道

旧横浜国大ケヤキ並木

鶴見区 18

歴史と緑の散歩道

神奈川区 20

滝野川歴史の道

保土ヶ谷区 22

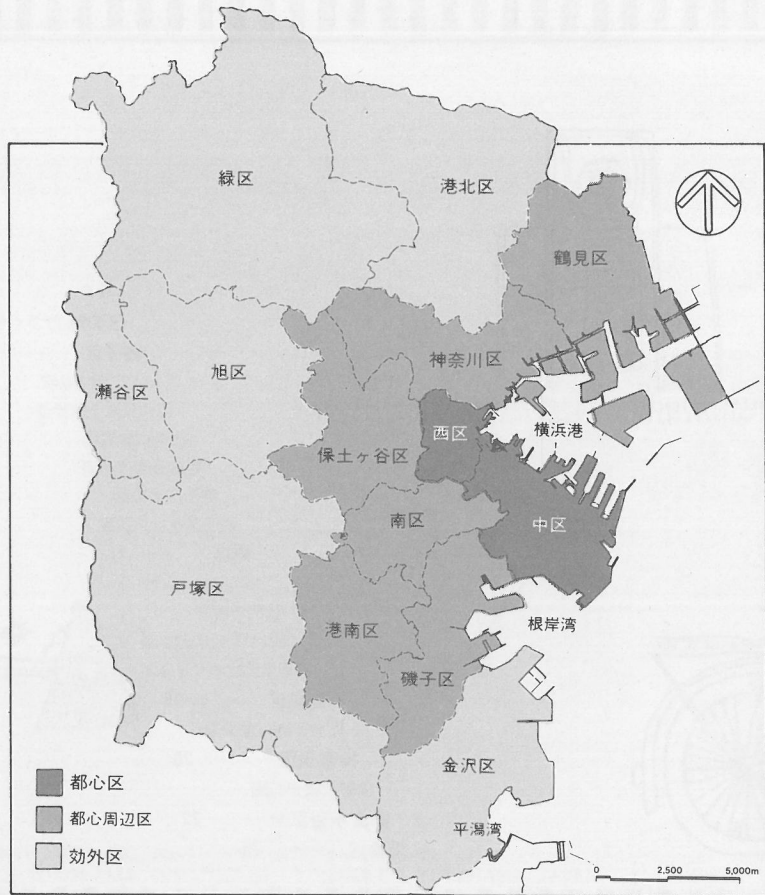
港南区 23



YOKOHAMA

# 区の魅力づくり

横浜は280万人余りの市民が14の区に分かれて生活しています。区により、地形などの自然状況や、歴史的背景、まちの様相が異なり、こういった要素によって各区独自のまちの姿になっています。しかし、戦後市街地が急激に拡大し人口も急増したため、それぞれの区は、魅力的な環境を整えるまでには至っていないのが実情です。14区のうち、特に都心の周辺にある区は、都心部の区や郊外にある区とは異なり、市街地の状況は一応安定し、また大規模な都市計画事業も当面はあまり考えられない地域です。街づくりの要望も量的なものより、質の向上にあると考えられます。地域固有の価値や特性などが今まであまり顧みられませんでした。そのため身近な地域から街づくりを見直してみることが求められています。地域の歴史的、自然的、景観的な価値などを配慮し、きめ細かく質の高い街づくりを展開するのが区の魅力づくりです。そのために地域の問題を総合的に把握できる区役所が中心となる必要があります。そして魅力づくりの事業の実施にあたっては、単一の事業に止まらず、他の街づくり事業との連携をはかり、新たな創意工夫を加え、事業の相乗効



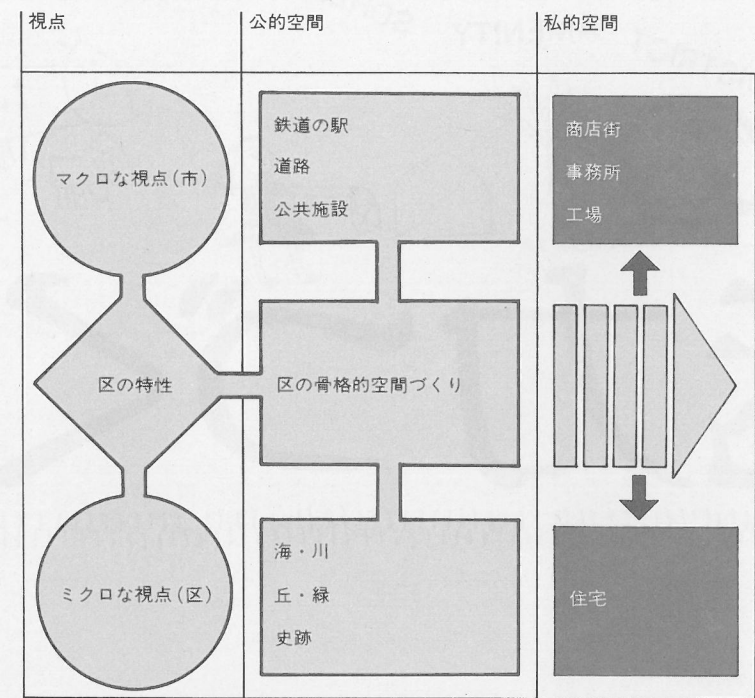
果を高めることも必要です。区の特性を生かすきめの細かい街づくりの積み重ねが、区民の区への愛着を深めることにもつながると考えられます。

具体的な区の魅力づくりの取組みとしては、駅周辺、区役所、公園、商店街等、区民の日常生活の中心となる場の整備や海・川・丘・史跡等の各区固有の空間の再整備・演出を、公的事業を中心として進めることを第一段階としています。さらに、こうした地域の骨格となる施設の周辺にある建物や土地への働きかけを行ない、地域全体の魅力を高める総合的な街づくりへ展開していくことが望まれます。

以下に紹介する各事業や計画は、区民の要望や地域分析を基に策定された各区の「区の魅力づくり基本構想」に基づき企画され、地元住民や関係局区の協力により実施されたものの一部です。区の魅力づくりは、身近な地域の街づくりであるためにその対象はいくらでもあり、区民の熱意や関係局区職員による横断的かつ総合的な取組みによって限りなく発展するものである、と考えられます。

DISTRICT AMENITY SCHEMES: New locally orientated urban design schemes formulation and implementation activities on the district-wide basis, initiated by the city's district offices with support from the city urban design team's special expertise. These schemes are orientated towards upgrading the quality of old urban environments by strengthening the character of each district by utilizing amenity features, with collaboration of district residents and also coordination among public authorities.

区の魅力づくりフローチャート





# 磯子区

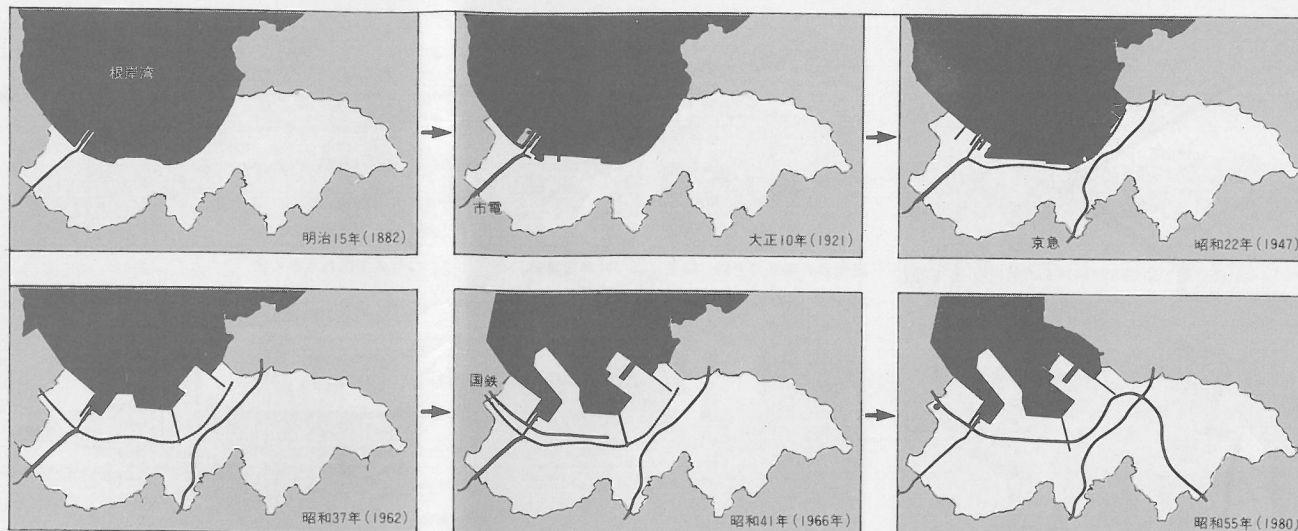
面積=18.96km<sup>2</sup> 世帯数=54,643 人口=159,663人



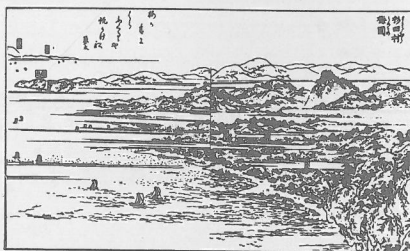
磯子区は、根岸湾に沿って南北に細長く広がっています。埋立地の広大な臨海工業地帯とその背後の旧海岸線沿の平坦地、そして円海山を頂点として汐見台、洋光台などの大団地のある東西に延びる台地によって構成されています。埋立前の磯子は、京浜地域に残された唯一の自然海岸線をもった風光明媚な海辺のまちでした。歴史的に特色のあるものとして、開港後の根岸の外人遊歩道や堀割川の開さくなどがあります。

磯子の地形で特徴的なのは、海に面した斜面緑

地です。磯子は埋立や宅地造成で地形がかなり変化してきましたが、この緑地は起伏が著しく、又傾斜が急なために開発からとり残されてきたものです。一方、埋立地は工場地帯として造成されたために、一般の区民が立入ることのできる水際線が限られています。しかし、遠くになったとはいえ磯子には海があり、丘や川などの多様な地形、そして歴史的資産があるわけで、こうしたものを今後の街づくりに活用することが望まれます。



磯子区の海岸線の変化・根岸湾の埋立進行図



杉田村梅林園 (江戸名所図会)



今は見られない堀割川沿の桜並木 (明治期)



水面静かな堀割川と交通渋滞に悩まされる国道16号



根岸湾の埋立でつくられた磯子の臨海工業地帯



海の見えるまち (汐見台団地より根岸湾を望む)



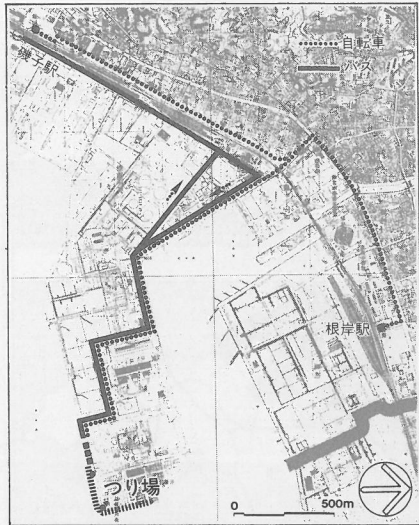
昔からの下町らしさで活気のある杉田商店街

磯子区

いそご海づり場

この海づり場は、埋立地の先端にある下水処理場の護岸を利用してさん橋を設け、釣りを中心に区民利用を考えた施設です。下水処理場内に侵入して釣りをする人が絶えず、その人たちの排除するために、逆に水際線を開放したわけです。管理運営は、区役所が地元の団体と協力して行ないます。

さん橋部分は、幅3m、延長約500mで管理小屋とトイレが設置されています。海づり場へ至る自転車・歩行者道も整備されました。この海づり場の建設によって、磯子の海が再び区民に近いものになってほしいものです。



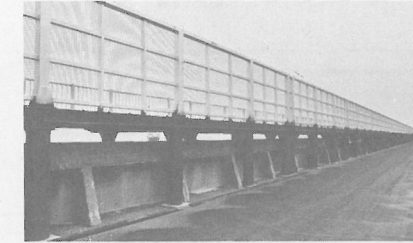
いそご海づり場位置図



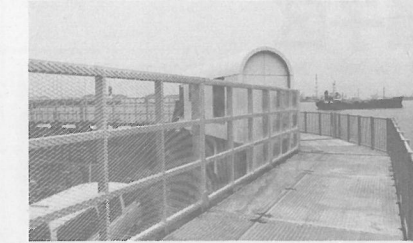
護岸沿の道路での釣り風景(海づり場建設前)



つり人で賑わうさん橋



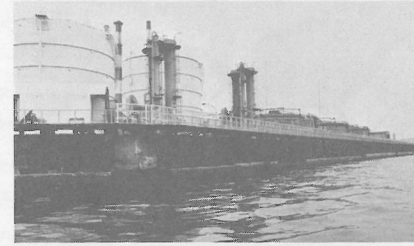
既存護岸を補強してつくられたさん橋



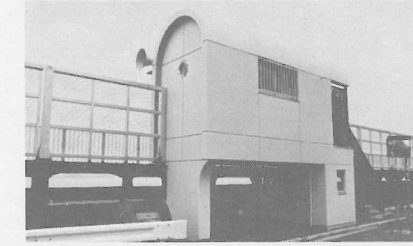
さん橋中央管理小屋(トイレ・倉庫)



海づり場入口(入口階段・トイレ・駐輪場)



海づり場全景(海側よりみる)

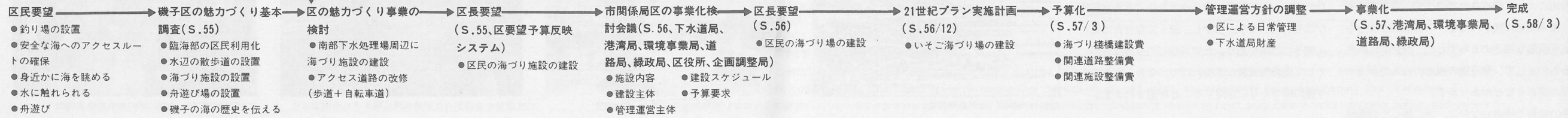


つり場入口管理小屋(売店・管理人が常駐)



下水処理場の護岸を利用してつくられた海づり場

南部下水処理場よりの提案(S.55)  
 ●秩序ある水際線利用の促進 ●区民利用施設の設置協力 ●区民と区による運営管理

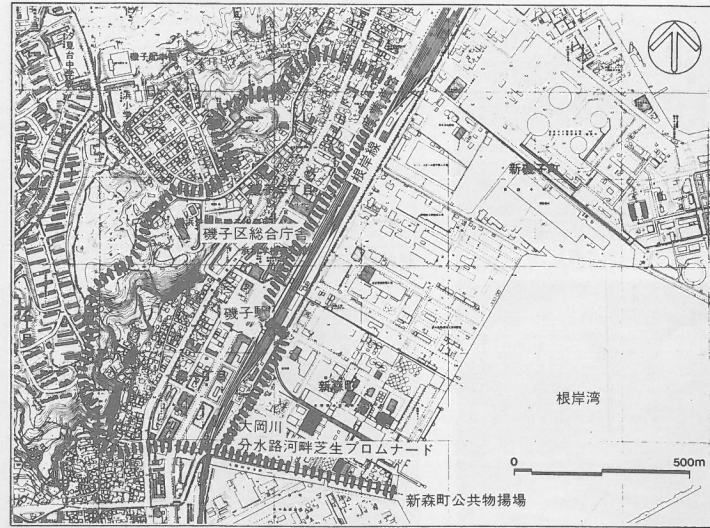




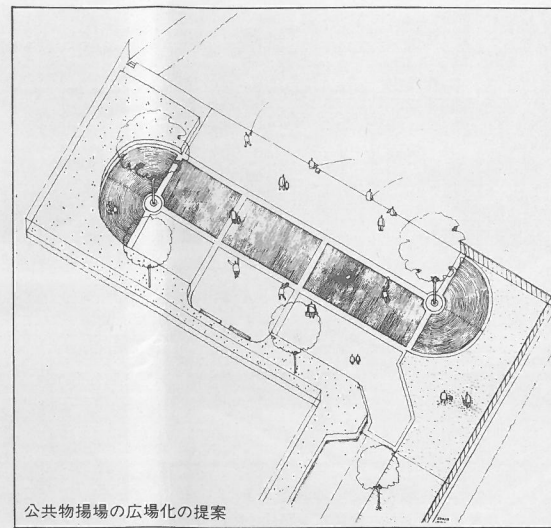
## 磯子区 海の見える散歩道

埋立により磯子の海は、区民がいつでも触れる海からながめる海へと変わってしまいました。丘の上や坂道などからの海への眺望を区民共通の財産と考え、区民が楽しめるようにするのが、この海の見える散歩道です。

磯子駅から背後の丘を巡り海へと至る約1時間のコースです。途中の道の遊歩道化や小広場の整備が進められます。今後開発が予定されている場所では、海への眺望を大切にしながら検討するとともに、ルートの周辺環境の改善などもこの事業の目的です。



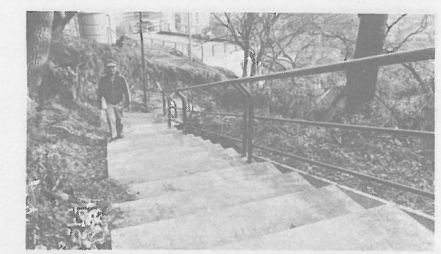
磯子海の見える散歩道ルート



公共物場場の広場化の提案



磯子の旧海岸線風景（昭和33年頃・埋立前）



磯子の町を見下ろす階段道（森浅間神社脇）



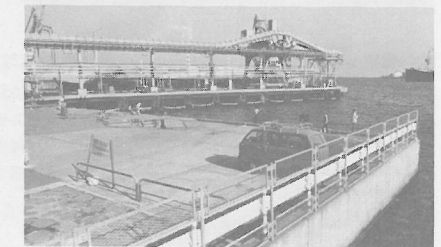
区内の魅力を伝える磯子魅力案内板（磯子駅前）



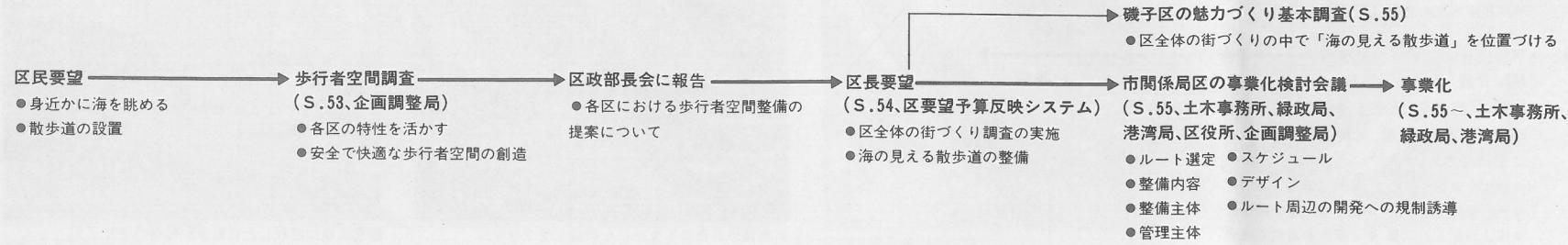
芝生歩道と桜並木の散歩道（大岡川分水路河畔）



山道を修復してつくられた散歩道（間坂交差点裏）



子供たちの絶好のつり場（新森町公共物場場）



磯子区

根岸駅前広場

駅前広場の再整備工事を道路部分の舗装打換と車交通の効率化のみに終わらずに、周辺の建物などを含む総合的な空間づくりとして実施されたのがこの根岸駅前広場整備です。

駅前広場に隣接して計画された大規模マンションと商業ビルの開発を調整して生み出された公開広場と駐輪場用地などを取り込んで駅前広場の計画が全体的に組み直されました。また、街灯、舗装、植栽、バス屋根、立体駐輪場などの公共施設のデザインも根岸らしさをつくるように工夫されました。商業ビルのデザイン調整も行ない、駅前広場全体が区の玄関にふさわしいものとして整備されました。

区民要望

- 舗装の打換
- 一方通行化等交通処理変更
- バス乗り場の改善
- 駐輪場の設置
- 公衆便所の設置

駅前広場改修計画の策定

- (S.55、道路局)
- バス乗り場の変更
  - 駐輪場の確保(歩道上)
  - 車廻しの円滑化

改修計画(変更案)の提案

- バス用スペースの配置修正
- 歩道の拡幅
- 歩行者用広場づくり
- 駐輪場用地の確保
- 駐輪場の建設
- 埋立記念碑の保全活用
- 周辺民間開発の調整
- 公衆便所の設置

民間開発の調整

- (S.56、建築局、企画調整局)
- マンション・商業ビル開発の調整
  - 歩行者用公開広場の創出
  - 駐輪場用地の確保(開発地の一部)

市関係局区の駅前改修事業

- 検討会議(S.56、道路局、緑政局、交通局、教育委員会、環境事業局、建築局、区役所、企画調整局)
- 駅広全体レイアウト(駅前広場進入路の変更)
  - 駅広全体デザイン ● 駐輪場用地の確保とデザイン
  - 周辺開発との調整 ● 公衆便所用地の確保

事業化

- (S.56、道路局、緑政局、交通局、環境事業局)

完成

- (S.57/3)



駅前広場全景(改修前・駅側よりみる)

磯子区の魅力づくり基本調査(S.55)

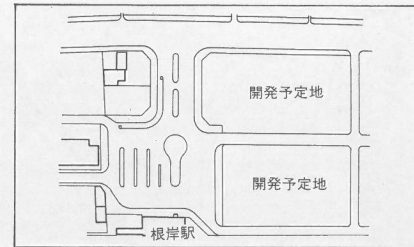
- 駅前広場を区の顔とする
- 歩行者空間の拡大
- 魅力資源の活用
- 民間エネルギーの活用



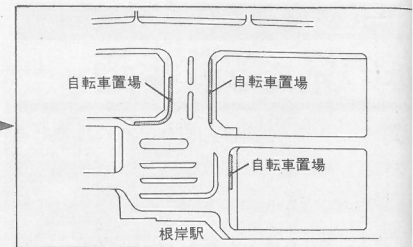
豊かな斜面緑地が駅前に広がる(改修前)



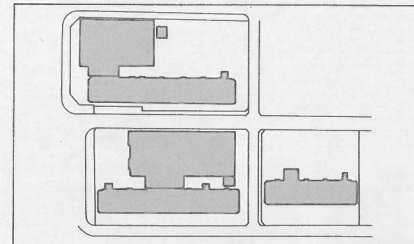
通行の障害になっていた放置自転車(改修前)



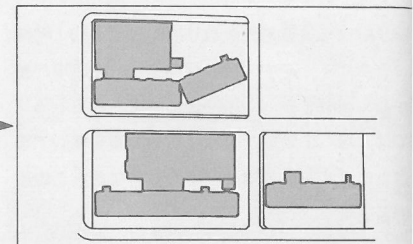
駅前広場改修前



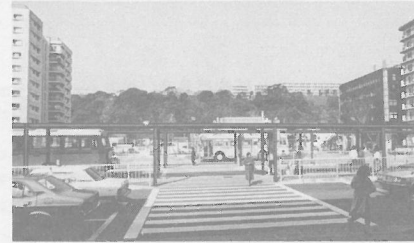
改修計画(当初案)



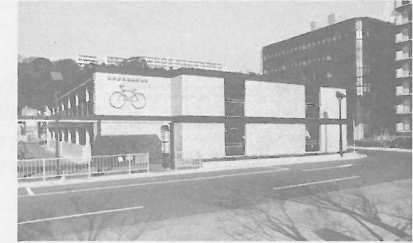
駅前マンション開発配置図(調整前)



(調整後)



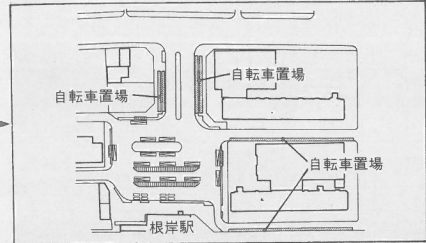
斜面緑地の景観を生かした駅前広場デザイン



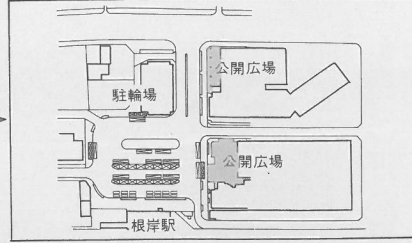
駅前広場に調和した自転車駐輪場のデザイン



(駅広) 4800㎡, (取付道路部分) 1000㎡, (駐輪場) 1100㎡



改修計画 (変更案)



(最終)



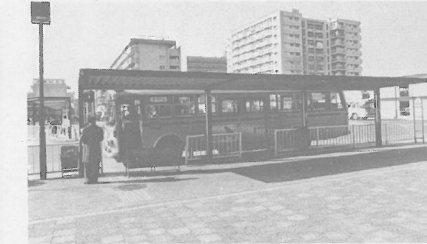
駅前広場全景 (改修後)



駅前広場と一体となったマンション前公開広場



駅前広場の表情をつくる商業ビルの通り抜け広場



バス屋根



根岸湾埋立の歴史を伝えるレリーフ



駅前広場全景 (改修後)



各施設のデザインの全体的調和



三角頭の根岸駅前広場用街灯

磯子区

岡村公園遊歩道

岡村公園は、磯子の高台にあり、区内でも数少ない富士山の景色が楽しめる場所です。この公園内を縦断して通る道路の歩道設置にあわせて、日常生活の中で見落としがちな魅力をさり気なくした遊歩道をつくるのが計画されました。

いくつかの細かな配慮の一つに、歩道上に設置した「富士山の見える方位盤」があります。狭いながらも、地形に沿ってゆるやかな曲線を描く歩道の中間地点に置かれた方位盤の位置に立つと、眼下の少年野球場越しに富士山が見えます。



見通しの効かない狭い道（改修前）



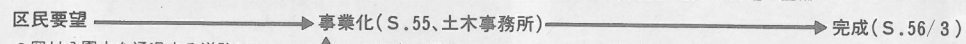
崩れた道路下の法面（改修前）



ゆるやかな曲線を生かした道路整備



晴れた日には富士山が見える



●岡村公園内を通過する道路に歩道の設置(安全対策)

- 公園内の道路としての特色を生かす(緑の法面)
- 地形になじんだ道路線形(ゆるやかな曲線)
- 特色ある手すり(狭い歩道を広く感じる)
- 富士山の見える方位盤

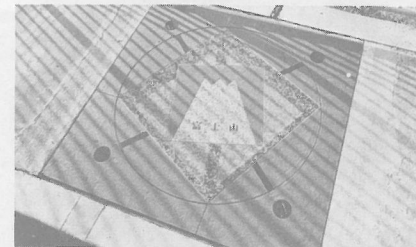
完成(S.56/3)

磯子駅前に魅力案内板の設置(S.55)

- 磯子ロータリークラブより寄附
- 区内の魅力的な場所を紹介
- 海の見える場所
- 富士山の見える場所

磯子区の魅力づくり基本調査(S.55)

- 区内の特色ある景観を生かした道路づくり



富士山の見える方位盤(御影石によるモザイク貼り)



手すり越しに野球の観戦



再び緑化された法面でのタコあげ



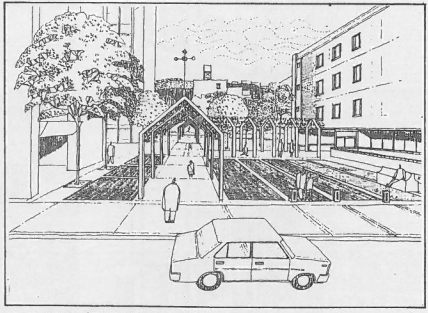
**磯子区**

**磯子広場公園**

区庁舎には毎日多くの区民が訪れます。しかし、敷地が狭く、区民が憩える場所がないのが実情です。

磯子区庁舎南側の横浜地方法務局磯子出張所が移転し、また隣接する私有地の移転計画もできたため、区文化ゾーンの一環として広場公園を整備することが計画されました。ただし、当面は暫定利用とすることになりました。

一方、庁舎前の産業道路の歩道が狭く、違法駐車もあとをたないため、歩道を拡幅整備して広場がつくられました。この広場に面して、区民の作品を展示する屋外ギャラリーも設置されました。



広場公園 (提案イメージ)



歩道橋脇から区庁舎前にかけての産業道路の広場化



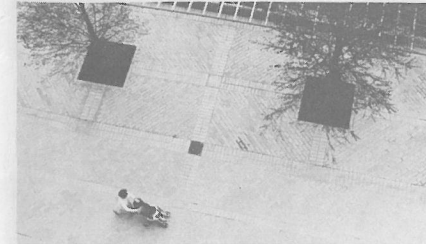
カツラ、コブシの樹形が映える区庁舎前広場全景



歩行者自転車通行ゾーンと憩いのゾーン



植栽樹兼用ベンチ (レンガタイル貼り)



レンガ貼りのパターンによる広場の表情



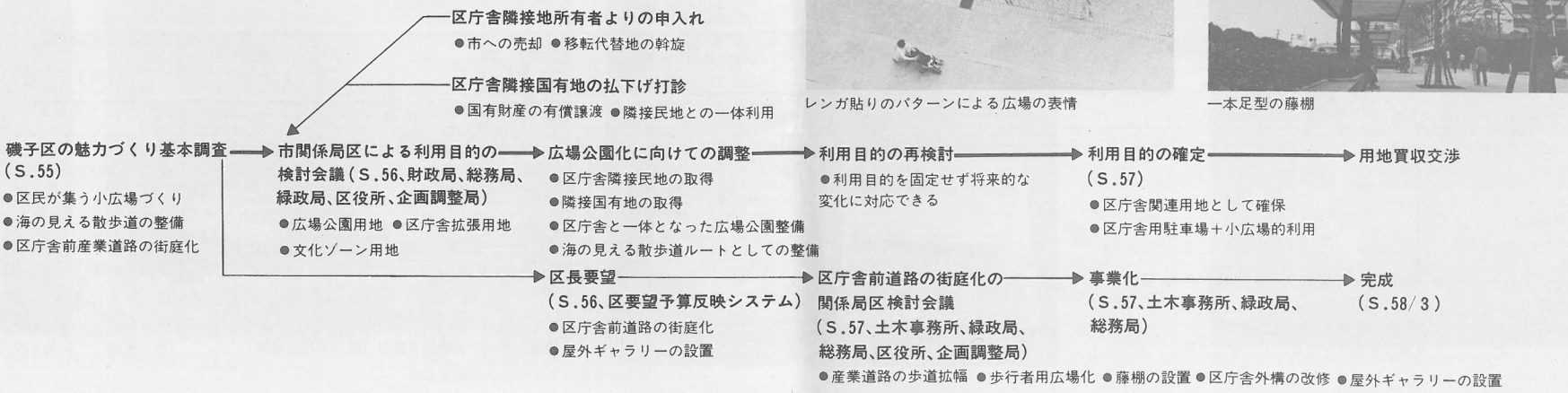
一本足型の藤棚



区庁舎構内の修景 (身障者用スロープとシンボル樹)



区庁舎と磯子産業道路 (改修前)



区民の作品を展示する屋外ギャラリー

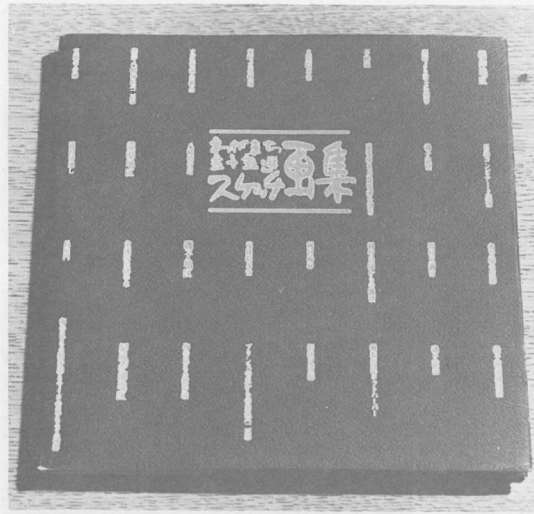
磯子区

磯子スケッチ画集

現在の磯子には昔からの魅力的な風景がまだ残されています。また新しい街の中にも新たな魅力が生まれています。

磯子の魅力を区民に新ためて知ってもらうことによって、区民の街づくりへの関心が高まるきっかけとなることを期待してつくられたのが、このスケッチ画集です。

区内在住の画家の方々に区内の日常的な風景を描いていただいたスケッチをまとめた「絵で見るイソゴ」と、区の地形や緑などの現況図に区の歴史やエピソードを加えた「図で見るイソゴ」で構成されています。



スケッチ画集表紙

磯子区の魅力づくり基本調査 (S.55)

- 区内の魅力資源の活用
- 区の姿を知る
- 区の歴史を知る
- 区民が自分の地域に愛着をいただく
- 区民の主体的な街づくりへの参加を促す

**磯子区民祭**  
 ● 区内在住の画家による  
 区の風景画展  
 ● 区の日頃気がつかない  
 魅力を絵を通じて知る

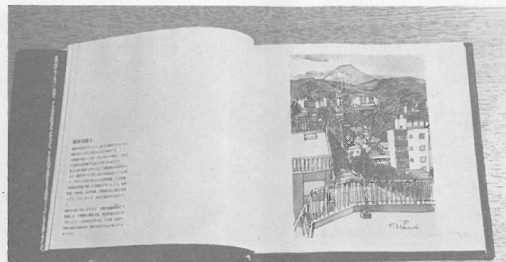
スケッチ画集の検討

- 区民祭の絵による画集化
- 描いた場所の案内図

「磯子五十五選スケッチ画集」  
 として編集

- (S.56、区役所、企画調整局)
- 絵で見るイソゴと図で見るイソゴ

販売 (S.56/4)



絵で見るイソゴ (スケッチ画集)



図で見るイソゴ (区の歴史と現況を知る)



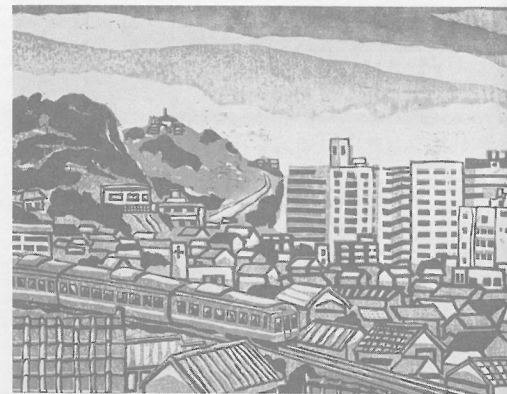
図版と写真で知る区の姿



富士の見える洋光台第三小学校 (高台の新興団地) 尾上百合子画



東京電力南火力発電所を望む (根岸湾埋立地区) 牧利保画



屏風浦駅付近 (京浜急行とプリンスホテルの丘) 西田知子

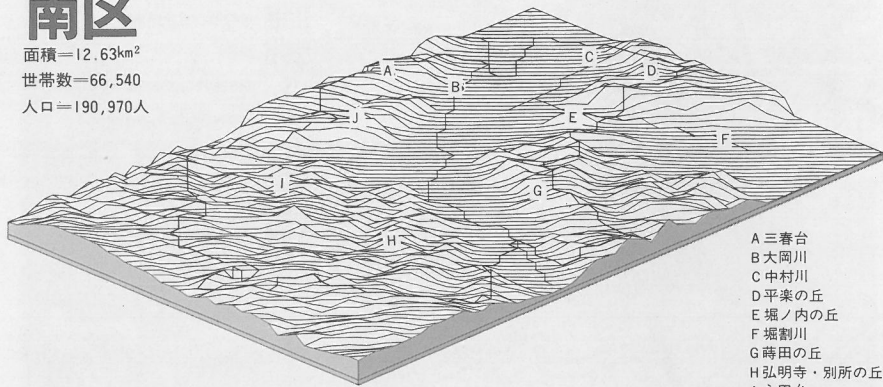


妙法寺境内 (歴史的な杉田梅林の名残り) 浜田三郎



# 南区

面積=12.63km<sup>2</sup>  
世帯数=66,540  
人口=190,970人



- A 三春台
- B 大岡川
- C 中村川
- D 平楽の丘
- E 堀ノ内の丘
- F 堀割川
- G 蒔田の丘
- H 弘明寺・別所の丘
- I 永田台
- J 清水ヶ丘

南区はミナトヨコハマの下町的雰囲気を持っています。捺染や印刷関係を中心に比較的小規模な産業がまちなかに集積しているのも特徴です。また、ヨコハマ商工業の担手を多く輩出したY校(市立横浜商業高等学校)も区の中心部にあります。

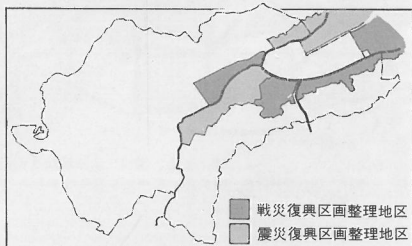
地形的には、区の中心部を流れる大岡川とその周囲の、蒔田の丘を初めとする7つの丘によって特徴づけられます。大岡川は円海山に源を発し、ミナトへと河口を開き、ヨコハマ経済の発展の礎を築いた大運河網を形づくってきました。震災と戦災の後の土地区画整理で大岡川沿の旧市街地の

まち割りは比較的整然としていますが、宅地割りは細分化されて市内で最も人口密度の高い区となっています。区西部の丘陵部は、近年の宅地開発によってつくられた新市街地です。わずかに残された斜面の緑もマンション開発によってなくなろうとしています。

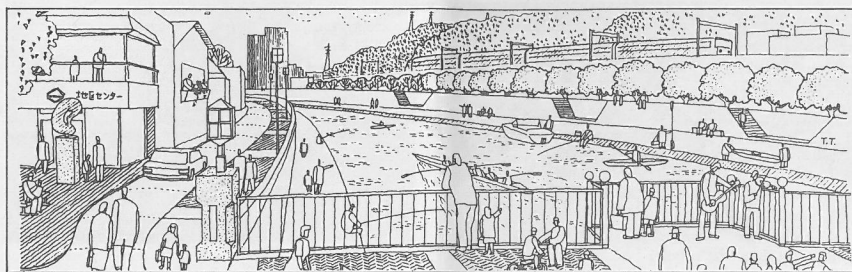
歴史的に特色のあるものとしては、條里制の名ごりを示す蒔田の地名や市内でも創建が古い弘明寺などがあります。こうした背景の中で南区の街づくりは、その気さくな下町らしさと丘と川を生かしていくことが大切でしょう。



南区の構造概念図



土地区画整理位置図



川を生かした街づくり(イメージ図)



区内で最も高い山王台の無線中継所と富士山



区民に親しまれてきたY校の若草色のドーム



満開の桜が川辺に映える大岡川プロムナード



建込んだ家並の中に感じられる下町らしさ



伝統を受け継ぐ祭



橋のたもとの気さくな三吉演芸場



まちを囲む丘へと通ずる坂道

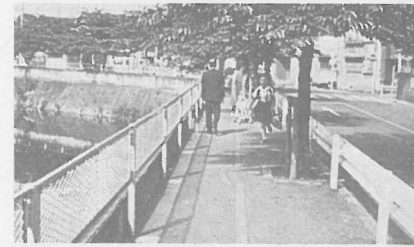
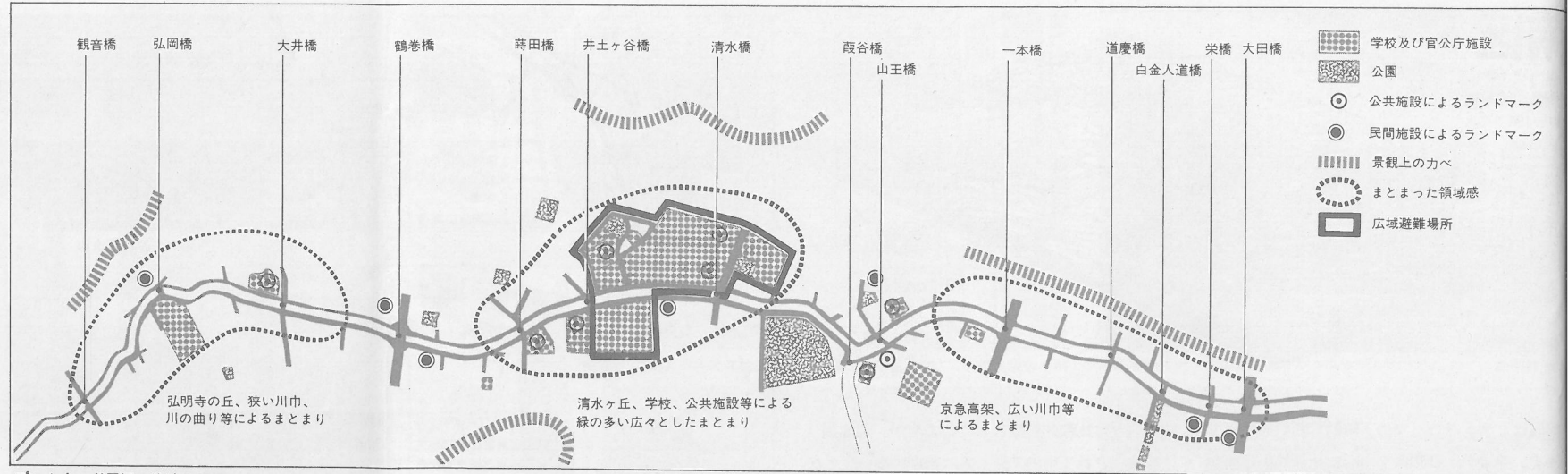
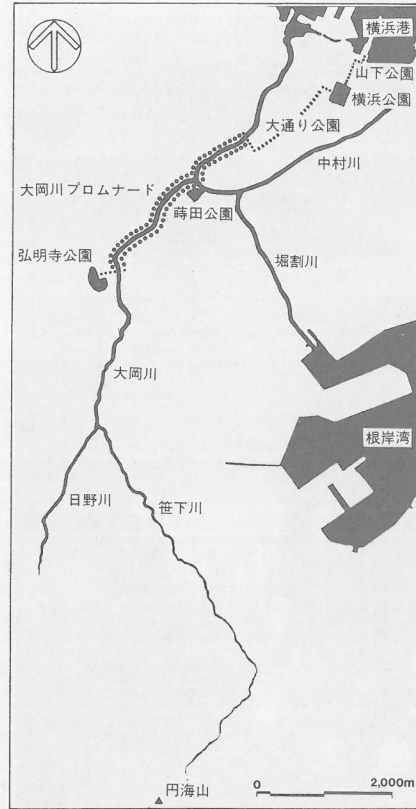
南区

# 大岡川プロムナード

大岡川プロムナードは、区を中心を流れる大岡川の川辺を、歩行者が安全で快適に散策したり、川に接することのできる潤いのある人間的な空間として再生したものです。

以前の大岡川は、廃液やゴミなどにより非常に汚れていました。殺風景な川辺の道は、親しみのわかない状態になっていました。そうした中で、区民の永年にわたる要望を受けて大岡川プロムナードは検討され、南区の魅力づくり事業として、弘明寺の観音橋から黄金町の太田橋に至る約3kmの区間にわたって実施されました。

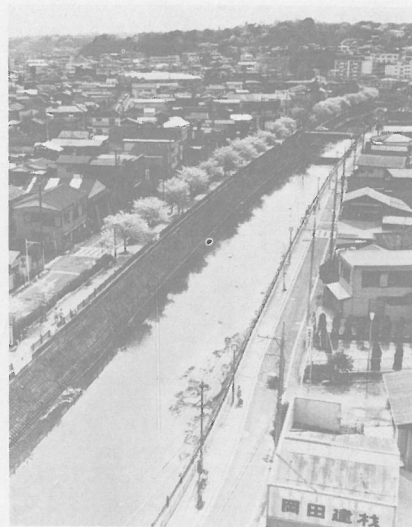
事業内容は、水辺に近づける願いを込めて川側にレンガ舗装の歩道を設置し、サクラ並木を復活し、また南区のイメージをデザインした街灯や手すりなどを設置しました。気軽に腰かけて休める憩いの場となるように植栽柵を利用したベンチも設けて、川辺の道は快適な散歩道として生まれかわりました。桜の咲く時期には散策する人の姿が絶えません。



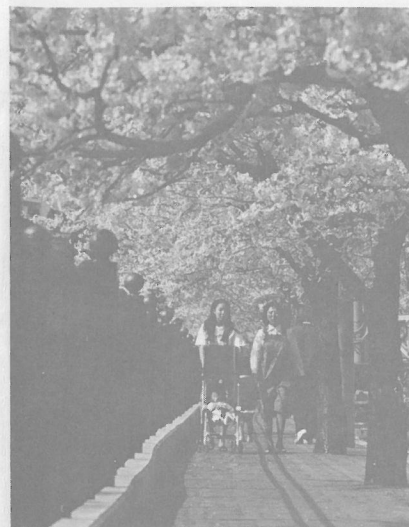




広場遊ぶ人々（弘岡橋上流・右岸）



満開になった川辺の桜並木（鶴巻橋上流）



桜のトンネル（弘岡橋下流・右岸）



明治時代の大岡川風景（山王橋、日枝神社付近）



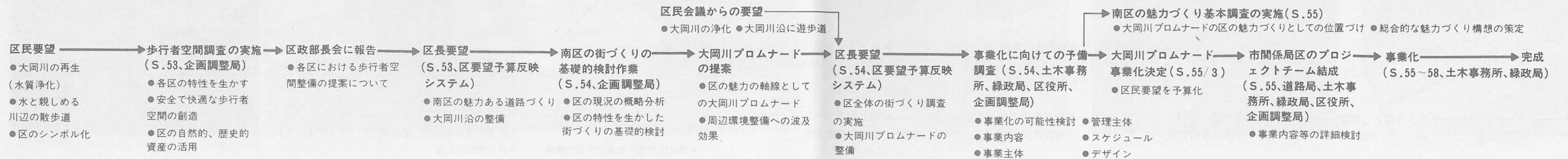
大型消防車の出入を考えた南消防署前の二段歩道



元気な南区の子供たち（Y校前）



視覚的広がりを与える二段歩道（井土ヶ谷橋下流）

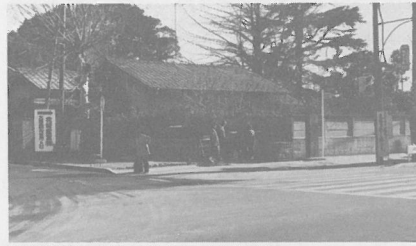


南区

# 弘明寺街庭

横浜国立大学の移転に伴い土地の一部提供を受けて、バスベイ（バスの寄りつきスペース）の建設が計画されました。それを単に機能的な場所の建設に終わらせず、街角の広場として魅力をもたせようとしたのが、この弘明寺街庭です。

バスを待つ人と通行する人を分けた二段式の歩道、植栽柵を利用した木のベンチ、弘明寺の屋根に似た街灯などの工夫をしています。道は単に通行するだけでなく、場所に応じて人々が憩うことのできる所であることを、この街庭は示しています。



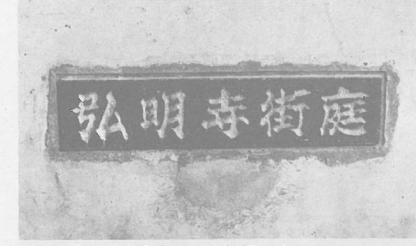
旧横浜国立大学正門付近（改修前）



鎌倉街道沿の狭い歩道に置かれたバス停（改修前）



緑陰さわやかなカツラのある街庭風景



区内在住の職人さんによる銘板レリーフ



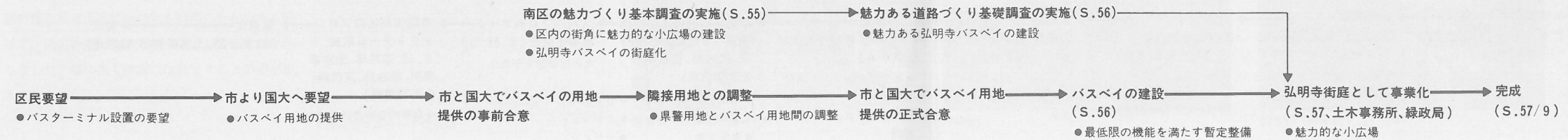
スロープによる自然な歩行の誘導



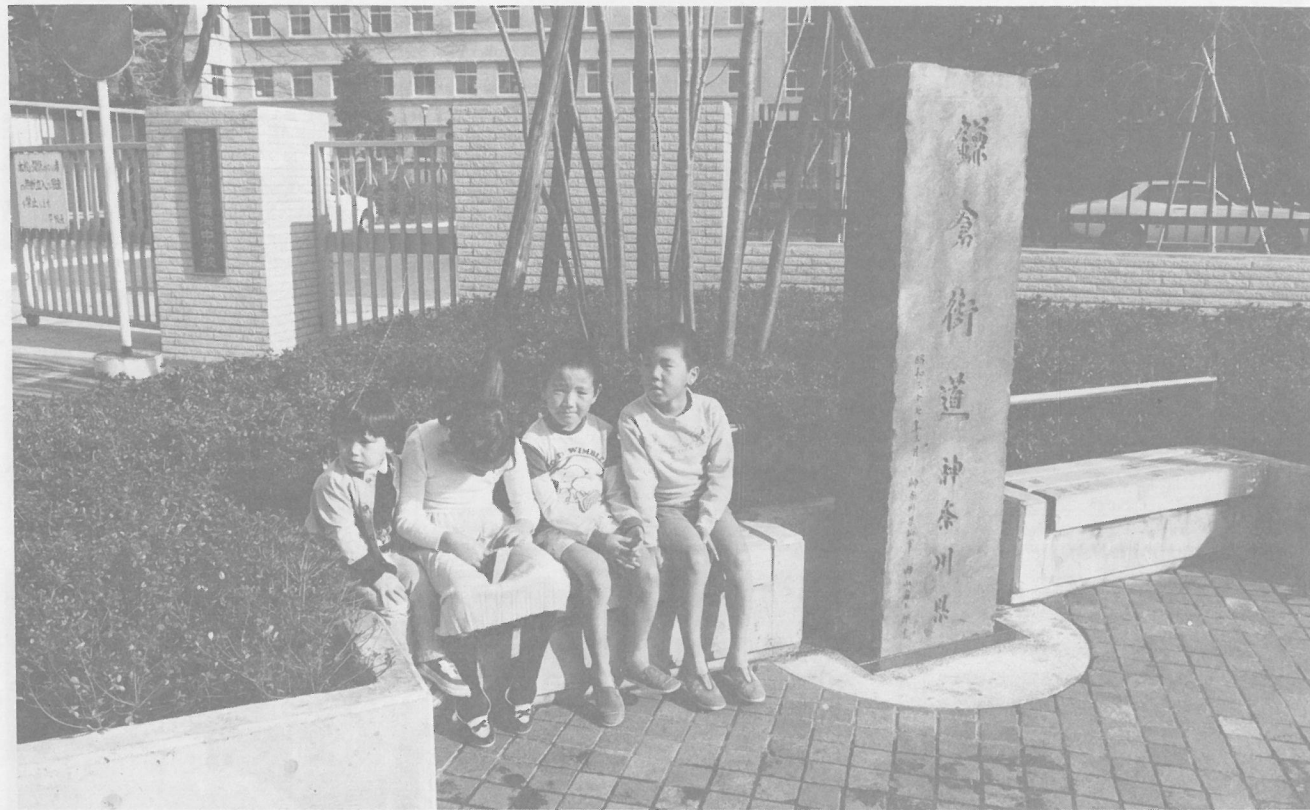
弘明寺の伽藍の屋根を模した街灯



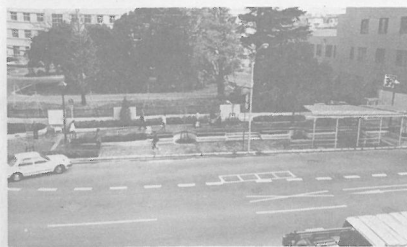
街灯夜景——ルーバーによって和らかなひかりと



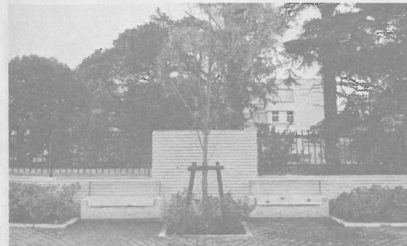




鎌倉街道記念碑とシンボル樹のヤマザクラ



弘明寺街庭越しに横浜国大付属中学校をみる



国大付属中の塀と街庭デザインの調和



ツリーサークルとステンレス製防護フェンス



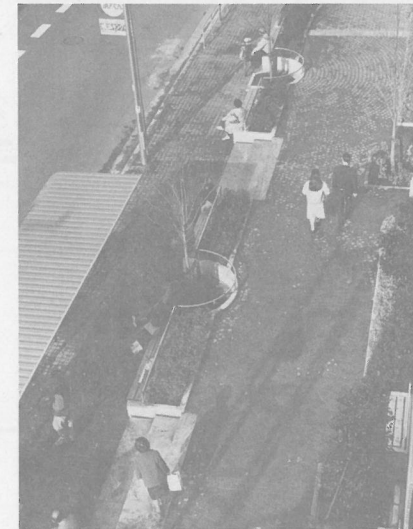
同じ舗装材で街庭と連続する南警察署前歩道



街庭に連続した旧道交差点の改良による小広場の創出



同じデザインモチーフのフェンスとベンチ用背もたれ



二段式歩道（バス待ちと通行スペースの分離）



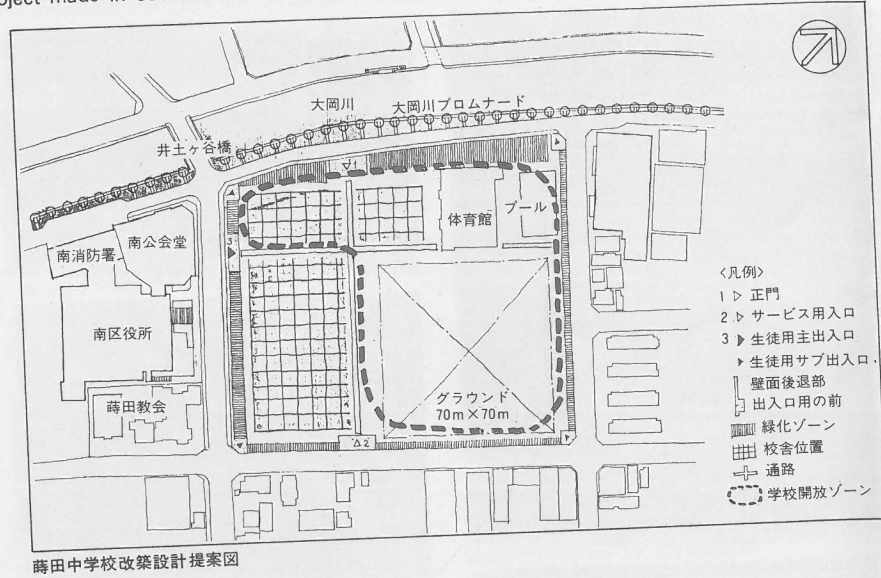
上下のレベルをつなげる御影石の階段

南区

蒔田中学校前遊歩道

蒔田中学校は、大岡川沿にあり区内でも古い学校です。その建替えの時に、大岡川プロムナードの周辺環境整備の一環として、学校用地の一部を歩道にし、歩行者空間の改善が行なわれました。

建物もプロムナードとの関連を配慮した配置とデザインがなされています。また、橋のたもとの交差点に面して設けられた正門前の広場は、プロムナードに広がり豊かな表情をつくりだしています。これに引き続き区役所側の歩道も広げ、新しい並木を植え、魅力づくりが大岡川プロムナードに直交して周辺へと伸びていきました。



大岡川プロムナードプロジェクトチーム(S.55)  
●プロムナード本体の設計  
●プロムナード周辺への波及効果の検討

蒔田中学校の改築計画(S.55、教育委員会、建築局)  
●老朽化校舎の建替

大岡川プロムナードとの整合性の検討

- 外周既存歩道の拡幅
- 学校用地の一部歩道用地への移管
- 新たな並木づくり
- 交差点部分に小広場

用地の移管合意  
●教育委員会→道路局

- プロムナードに調和する外観
- プロムナードに面する時計塔
- ブロック塀の改善

蒔田中側事業化(S.56、土木事務所、緑政局) 完成(S.57/3)

区庁舎側事業化(S.57、土木事務所、緑政局) 完成(S.58/3)  
●既存歩道の改善  
●区庁舎建物の修景  
●区庁舎用地と歩道との一体化



学校改築に伴う周辺歩行者空間の改善例(南太田小)



## 南区 旧横浜国大ケヤキ並木

弘明寺の旧横浜国大構内の外周部には戦前から大きなケヤキの並木がありました。しかし、国大の移転に伴い、国大より提供される歩道(幅員2.0m)の真中にこの並木が残ることになり、歩行の障害になるという理由で伐採されようとしていました。

しかし区民の貴重な財産ともいえるこの大木を保存しようと検討を重ね、並木の足元に気のきいた石を敷きならべて歩行者の注意を引き、並木にぶつからないように歩けるよう工夫をしました。その結果、並木の存在は以前にも増して高まり、まちの特徴のある風景をつくっています。



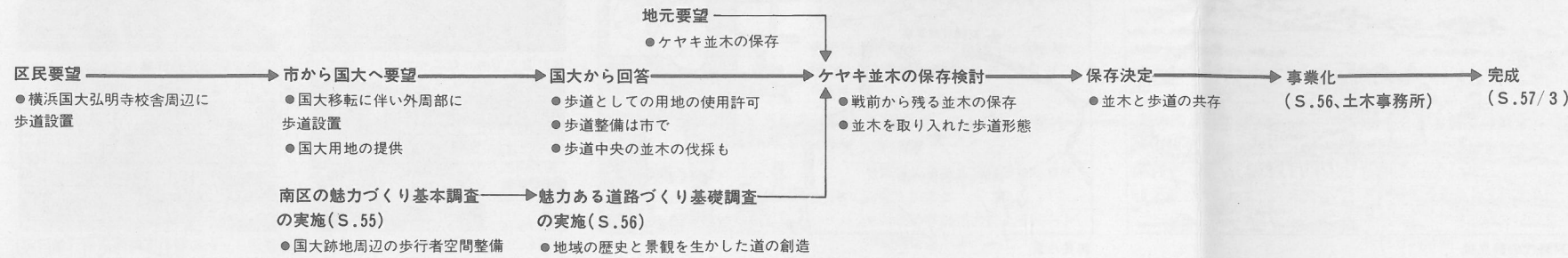
狭い道路と国大構内のケヤキの大木 (改修前)



歩道の設置とケヤキ並木の保存 (改修後)



密集市街地の中での潤いのある並木通り



並木と共存した歩行者空間



ケヤキの足元のアクセント (鉄平石ピンコロ舗装)

# 鶴見区

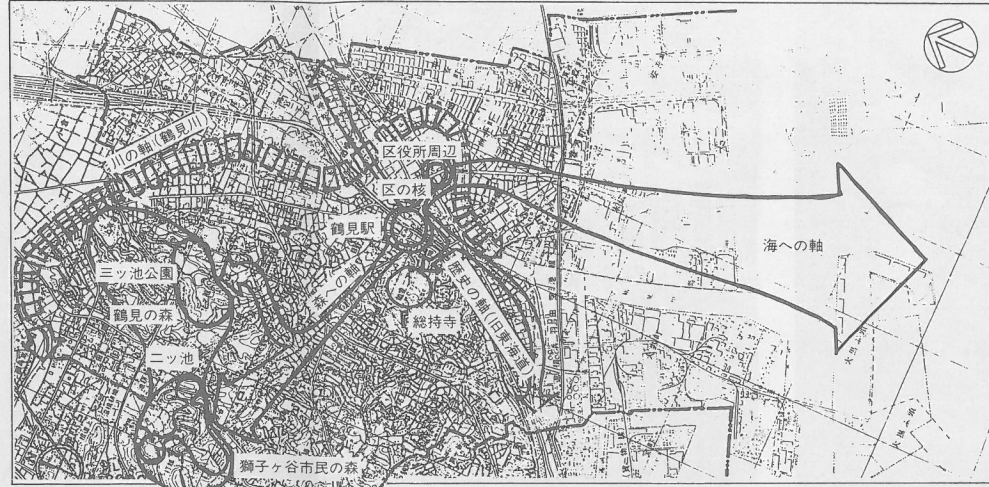
面積=30.29km<sup>2</sup> 世帯数=84,625 人口=230,875人



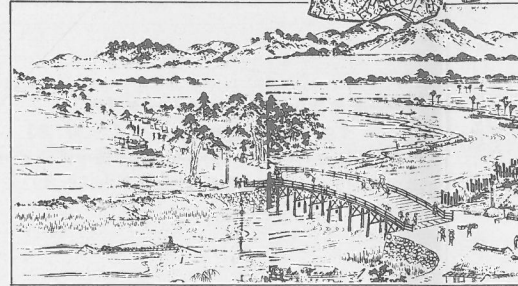
鶴見区の地形は、区を中心を流れる鶴見川による広大な沖積低地と西部に広がる丘陵地とに分かれます。低地部は隣接する川崎とともに京浜工業地帯の要として工業地帯が広がり、下町的な親しみやすさがある一方、西部丘陵地帯には閑静な山の手の雰囲気をもつ住宅街が広がっています。生産都市と住宅都市の二つのイメージをもつのが鶴見区です。また、三ッ池公園や獅子ヶ谷市民の森のある北西部は緑が濃く、細かく入り込んだ斜面

に残る緑地は印象的です。

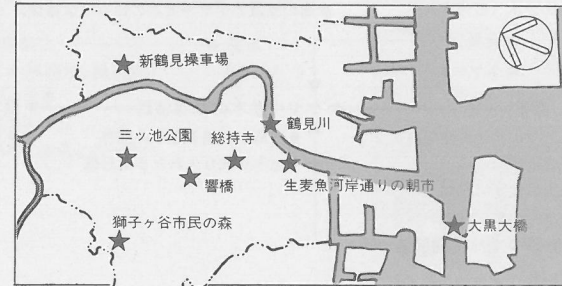
こうした鶴見区がもつ特性を生かした魅力ある街づくりが求められています。区民の動きが集中する鶴見駅と区役所周辺を区の核として、海や川と区民との触れ合いを再現する「海への軸」と「川の軸」の形成、そして三ッ池、ニッ池、獅子ヶ谷市民の森などを中心とした「鶴見の森」と区の核を有機的につなげる「森への軸」、「歴史の軸」の形成が鶴見区の魅力づくりのテーマとして考えられます。



区の骨格的魅力づくり構想概念図



江戸時代の鶴見橋



鶴見八景



区を縦断して流れる鶴見川



第二京浜をまたぐ響橋



丘の上の大伽藍総持寺



臨海工業地帯の大黒大橋



昔の溜池であったニッ池



広大な新鶴見操作場



寿司ねたの生麦の朝市



整然とした街割の下町商店街(潮田町)

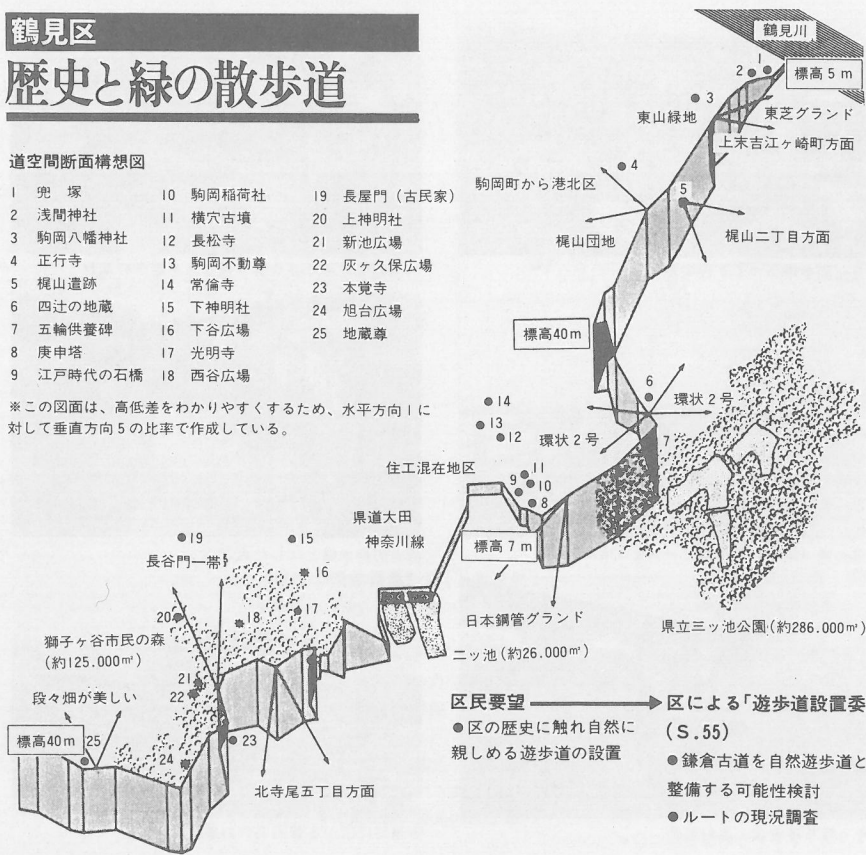


# 鶴見区 歴史と緑の散歩道

## 道空間断面構想図

- |           |          |             |
|-----------|----------|-------------|
| 1 兜塚      | 10 駒岡稲荷社 | 19 長屋門(古民家) |
| 2 浅間神社    | 11 横穴古墳  | 20 上神明社     |
| 3 駒岡八幡神社  | 12 長松寺   | 21 新池広場     |
| 4 正行寺     | 13 駒岡不動尊 | 22 灰ヶス保広場   |
| 5 梶山遺跡    | 14 常倫寺   | 23 本覚寺      |
| 6 四辻の地藏   | 15 下神明社  | 24 旭台広場     |
| 7 五輪供養碑   | 16 下谷広場  | 25 地藏尊      |
| 8 庚申塔     | 17 光明寺   |             |
| 9 江戸時代の石橋 | 18 西谷広場  |             |

※この図面は、高低差をわかりやすくするため、水平方向1に対して垂直方向5の比率で作成している。



区の北西部に残る緑の尾根づたいに鎌倉古道が通っていたと考えられ、石碑などの歴史的資産が道沿に見られます。この緑の帯を「歴史と緑の散歩道」として整備することが計画され、その具体的な整備の一環として設置されたのが、この道標です。道標には、ルートの道案内と周囲の自然や歴史の紹介がされています。区民が散歩する道筋で、緑や水辺、歴史に触れることが、区の魅力を再認識し、また新しい魅力を発掘することにもなるでしょう。

## 鶴見区の魅力づくり基本調査の実施 (S.56)

- 区北西部に残された自然を活用した「鶴見の森」づくり
- 鎌倉古道を軸に周辺緑地・公園を結びつけた「歴史と緑の散歩道」づくり

## 区民要望

- 区の歴史に触れ自然に親しめる散歩道の設置

## 区による「散歩道設置委員会」 (S.55)

- 鎌倉古道を自然散歩道として整備する可能性検討
- ルートの現況調査

## 区民向パンフレットの発行 (S.55)

- 区民に鎌倉古道の歴史と自然の姿を伝える
- 区民の参加協力によるルートの整備促進

## 案内板設置計画

- ルート周辺の歴史と自然を案内する
- 区自主事業として設置する

## サイン基本計画の策定へ変更

- 歴史と緑の散歩道整備基本計画の策定へ
- 区自主事業として調査委託
- ルート全体を印象づけるサインの総合的計画

## サイン計画市関係局区検討会議

- 設置内容
- 管理主体
- 設置場所
- スケジュール
- 建設主体
- 予算

## 道標の実施設計

- 区自主事業として設計委託 (S.57、土木事務所)

## 事業化

- 区自主事業として設計委託 (S.57、土木事務所)

## 完成

- 区自主事業として設計委託 (S.58/3)



道標



道標設置場所の修景(石積みと植栽)



散歩道としての散歩道整備



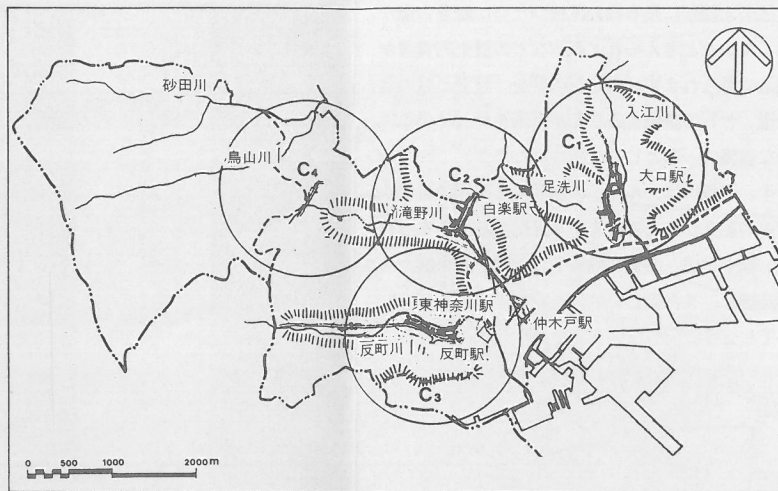
山道にひっそりと立つ道標



松の木のある散歩道

# 神奈川区

面積=23.38km<sup>2</sup> 世帯数=73,999 人口=200,416人



神奈川区の河川位置図

神奈川区は東西に細長く、埋立地の臨海工業地帯、内陸部の起伏に富んだ住宅地、そして西部台地の田園地帯に大きく分かれます。

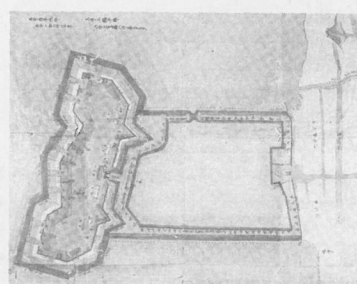
旧東海道の宿場町として栄えた神奈川は、埋立地に工場が進出するとともに放射状の低地を中心に市街化が進められました。この反町川、滝野川、入江川の3本の小河川によって作られた狭い低地帯と周辺の起伏にとんだ丘陵部に市街地が広が

っています。入江川の流れる大口周辺、滝野川の流れる六角橋周辺、反町川の流れる松本周辺に駅と商店街があり、そこを中心に各々の生活圏が広がっています。

このように神奈川区は、区全体を一つに包含する共通性を欠いており、各小河川を中心とした地域を単位とした、比較的小規模にまとまった地域毎に魅力づくりを展開していく必要があります。



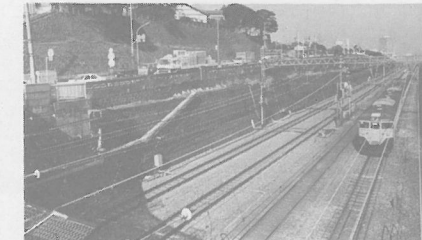
東海道神奈川宿



安政4年(1857)の神奈川台場



丘一面を埋めつくす住宅地



米国領事館跡本覚寺脇を通る車と電車の流れ



橋と港(米軍接収埠頭ノースピアと瑞穂橋)



都市の排水路と化した入江川



今も残る子安浜の漁村風景



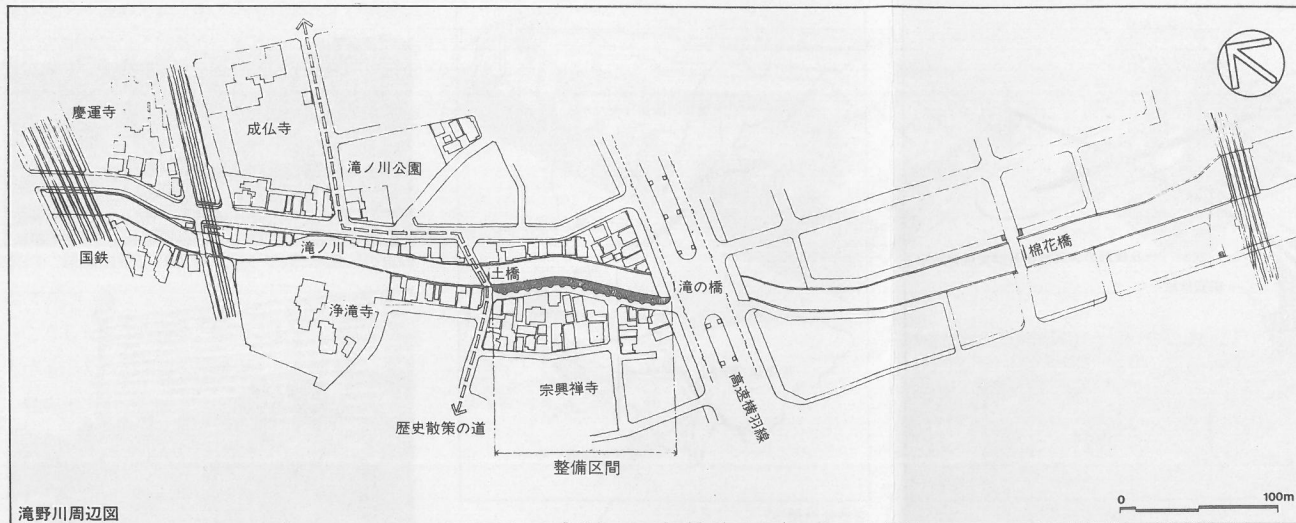
区西部に広がる菅田羽沢の農業専用地区



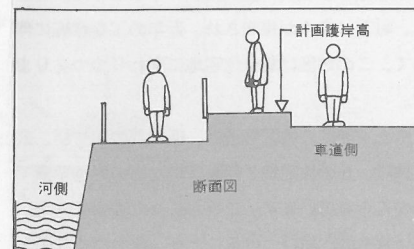
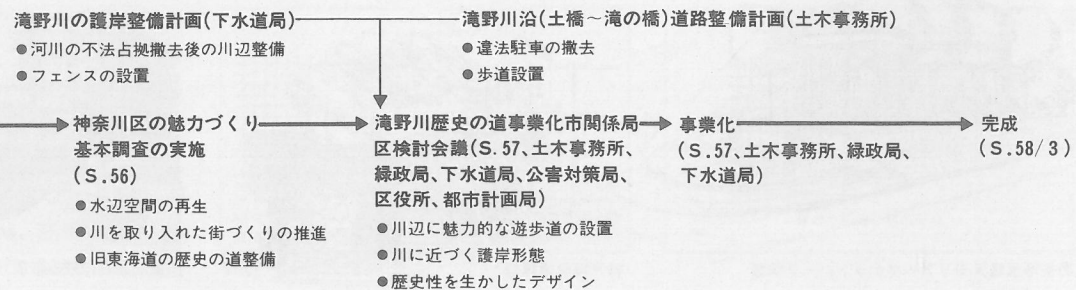
## 神奈川県 滝野川歴史の道

滝野川は、「江戸名所図会」によると、水運が盛んでした。河口には幕末の台場跡があり、旧東海道も交差して、区の歴史を感じさせる川です。

ここでの魅力づくり事業は、国道1号線より下流の特に旧東海道と交差する部分の歩道設置とそれに伴う工夫です。護岸の高さを低くして、護岸に必要な計画高は歩道の中央でとるようにしています。これによって、護岸のうっとおしさを和らげ、水辺にできるだけ近づけるようにしています。また旧東海道沿いというイメージを舗装の工夫と街路樹に梅を植えることで表現しています。



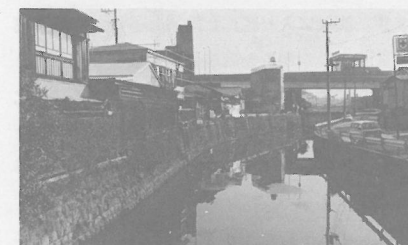
滝野川周辺図



滝野川河川環境整備計画断面図



滝野川の景 (江戸名所図会)



違法駐車が目につく殺風景な川沿の道 (改修前)



車道より歩道レベルを下げたより水辺に近い構造



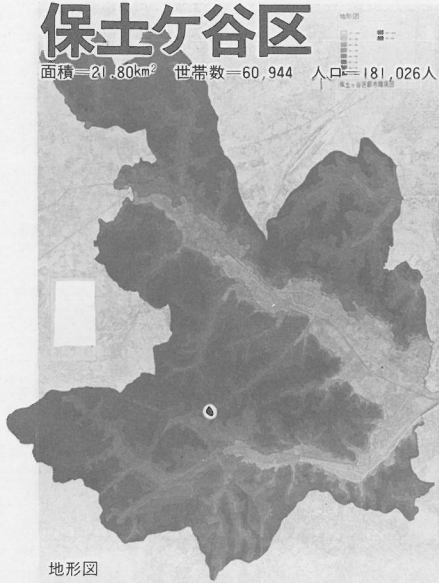
梅の木の街路樹と石貼りによる日本的な雰囲気演出



地域の小さな水辺空間として再生した道 (改修後)

# 保土ヶ谷区

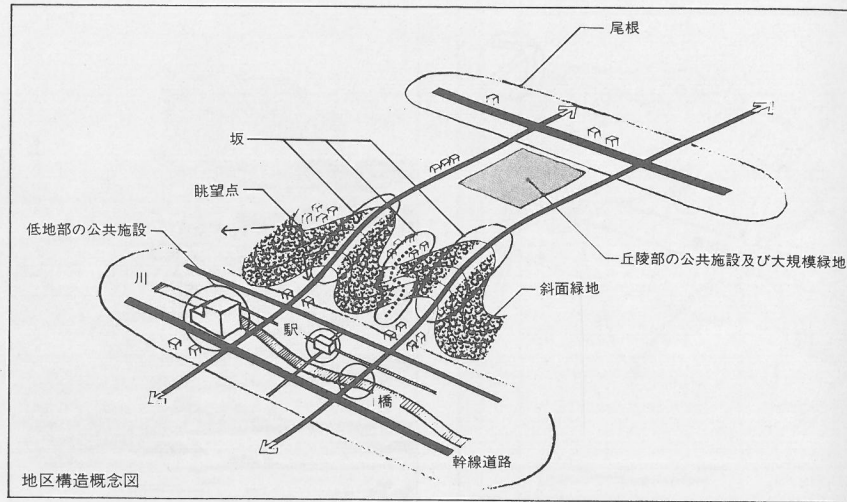
面積=21.80km<sup>2</sup> 世帯数=60,944 人口=181,026人



地形図

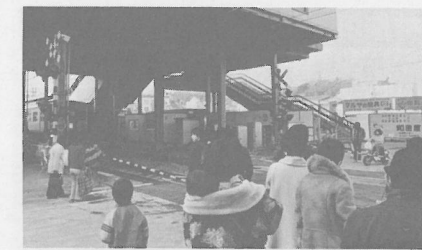
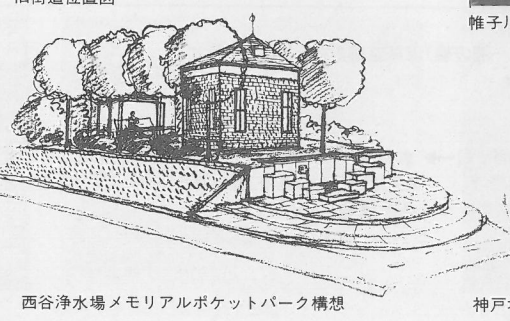
保土ヶ谷区は、国道1号や16号などの広域幹線道路が貫通し、また3つのインターチェンジをもち交通上の要衝といえます。

帷子川と今井川沿いの低地の幅は狭く、駅や商店街、行政サービス施設などがここに集中しています。また丘陵部に住宅地が広がっているため日



常生活に際して、丘陵と低地を往復することになります。複雑に入り組んだ稜線と谷戸が起伏に富んだ変化のある地形を形成しています。そしてこの複雑な地形と急峻な斜面により、斜面の緑が比較的豊富に連続して残されており、緑の壁をかたちづいています。宅地開発が市内でも比較的早い時期におこなわれたために、造成規模が小さく、結果として緑が残されてきたともいえます。帷子川流域は大工場が明治末期より昭和初期にかけて

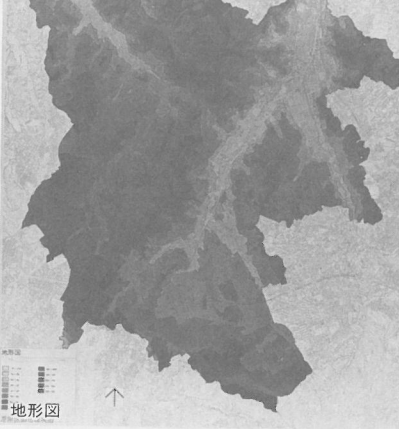
操業を始め、横浜の産業経済の中心でした。しかし、戦後は多くが接収され、近年の工場移転に伴って、この地区は集合住宅地に変わりつつあります。保土ヶ谷区の地区構造は、低地部の川や駅、公共施設、丘の住宅地と斜面緑地などの共通要素で形づくられています。これら各々に表情を与え、かつ有機的に結びつけることが、魅力づくりのテーマです。





# 港南区

面積=19.87km<sup>2</sup> 世帯数=60,511 人口=192,820人



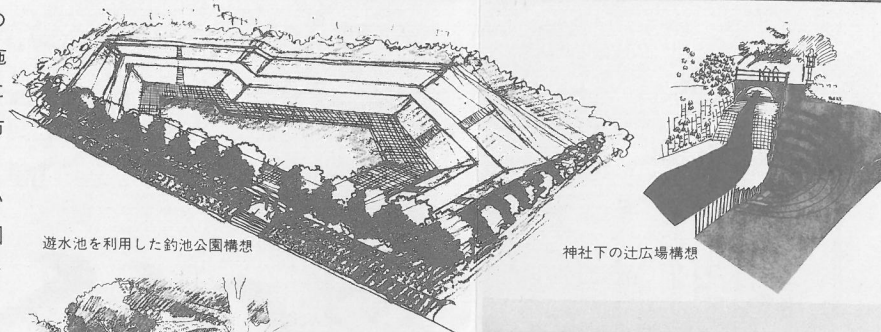
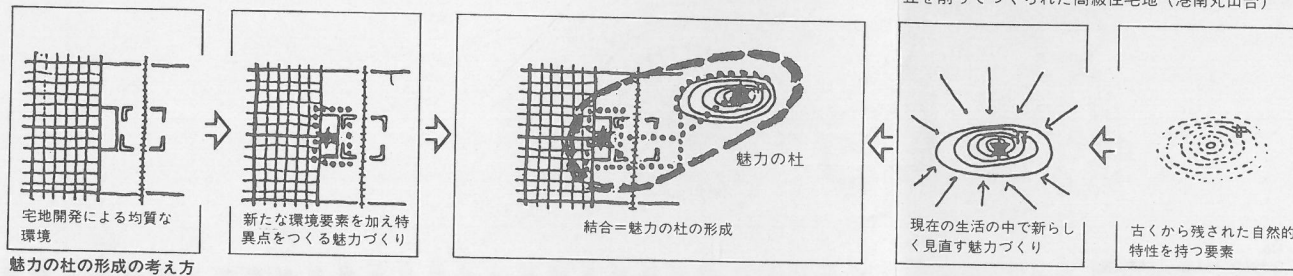
を住宅地が占めています。区の西部および南部の大規模開発地は、道路や公園をはじめ都市基盤施設がよく整備されていますが、比較的早い時期に開発された北部、東部の丘陵部の住宅地には都市基盤の弱い所があります。

一方、新市街地の中に自然や歴史が点在しているのも目につきます。永谷天満宮の森、日野公園墓地、鎌倉古道、久良岐公園、日限地藏などがそれです。

こうしたものは環境に奥行きを与え対比する豊かさをつくりだす重要な資源とも言えます。新しい住宅地の中に歴史や自然のもつ潤いを生かし、きめの細かい成熟した環境をつくりあげていくことが、港南区の魅力づくりの一つのテーマになるでしょう。

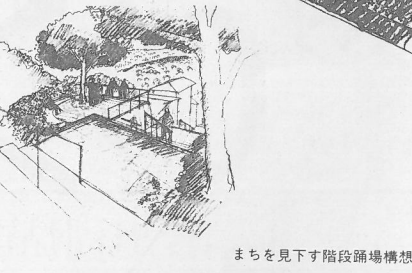
港南区は、大岡川と柏尾川の上流の狭い谷と多摩丘陵の延長である台地が入り組み複雑な地形をしています。さらに近年の大規模な宅地造成により地形が大きく変化したため、港南区全体として明快な地形的構造はみられなくなりました。

上大岡駅周辺の商業地区、大岡川、日野川、平戸永谷川沿いに点在する工場、野庭農業専用地区の農地や樹林地などを除いて、区内の圧倒的部分



遊水池を利用した釣池公園構想

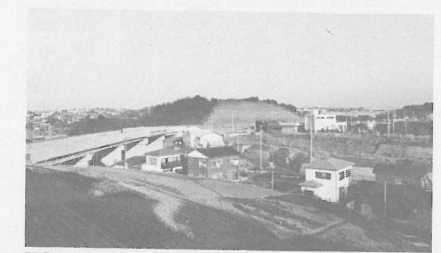
神社下の辻広場構想



まちを見下す階段踊場構想



丘を削ってつくられた高級住宅地(港南丸山台)



開発から辛うじて残された鎮守の森(永谷天満宮)



高層住宅団地の高く連なる擁壁(港南台)



駅前に広がる大規模遊水池(丸山遊水池)



雑然とした中にも活気のある商店街(芹銀タウン)



開発で変わりつつある川辺の風景(馬洗川)

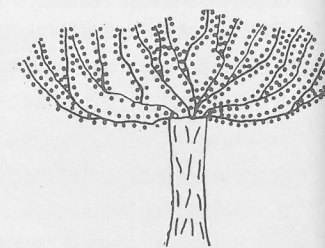


地域のシンボルとなる駅前広場(上永谷駅前)



Y  
O  
K  
O  
H  
A  
M  
A

編集・発行：横浜市都市計画局都市デザイン室 横浜市中区港町1-1 〒231 TEL=045-671-2023 協力：MATCH & Co.  
Published by URBAN DESIGN SECTION, THE CITY OF YOKOHAMA, MINATO-CHO 1-1, NAKA-KU, YOKOHAMA, JAPAN.



横 浜 市  
THE CITY OF YOKOHAMA